



# 谷原小だより 12月号

平成 28 年 12 月 1 日  
練馬区立谷原小学校  
校長 鈴木 英明

来年は60周年！式典は平成29年7月1日「谷原っ子 希望の道を 一歩ずつ」

## ★ ほめて育てる

校長 鈴木 英明

あいにくの雨の中ではありますが、先日の学芸会にはたくさんの保護者の皆様や地域の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。また、保護者の皆様においては、衣装作り等のご協力ありがとうございました。子供たちの晴れの舞台はいかがでしたでしょうか。「みんなの心と力を合わせて つくりあげよう すてきな舞台」というスローガンそのまま、どの学年も一人一人が自分の役割を果たし、練習してきた成果を学年や学級の団結力に変えることのできた学芸会でした。学芸会を通して学んだ協力して創り上げる力や仲間を認め合う力を12月の「谷原っ子まつり」へと引き継ぎ、子供たちのさらなる成長を促していきます。



さて、今年も残すところあと一ヵ月となりました。大人も子供もこの一年間を振り返り、それぞれの成長を確かめる時期となります。

人間の成長には、何か頑張って達成したという成功体験は欠かせません。先生や親からほめられるという体験を多くもっている子供は、自分のやっていることに自信をもち、何事にも積極的に取り組もうとする力をつけていきます。(もちろん、善悪の判断が間違っているときには、しっかりと叱る必要がありますが・・・)

では、ここで子供への接し方をチェックしてみましよう。

- (1)子どもに選ばせず、親が正しいと言ったものに決めさせる。
- (2)いつもうまくいく方法を教え、失敗させない。
- (3)できないことや失敗しそうなことは、先回りしてやってあげる。
- (4)子どもの言動に反応しない・無視する。
- (5)子どもを大人の劣った存在とみなし、馬鹿にする。

いくつ当てはまったでしょうか。これは、「ロボットに負ける人間にしてしまう親の5つの特徴」だそうです。この記事には、「子供の自尊感情を失わせ、自信をなくさせれば、自ら考えて動くことはできなくなってしまいます。他者の言いなりになってしまいロボットのような人間になってしまうことにもなりかねません。」と書かれていました。

「可愛くば五つ教えて三つほめ、二つ叱って良き人にせよ」とは、二宮尊徳氏の言葉だそうです。年の瀬です。ついつい、悪いところ、劣っているところにばかりに目がいき、怒ったり、叱ったりしてしまいがちです。学校でも家庭でも、良い点に目を向けながらほめ言葉を贈り、子供たちの自信、そして成長につなげていけるようにしていきたいものです。

今年度も、学校として、12月に体罰や暴力のない楽しい学校生活を送ることができるようにするためにアンケート調査を児童に行います。各家庭においても、お子様の声に耳を傾けたり、学校生活における出来事などについて話し合ったりする機会を設けるとともに、何かお子様について心配なことがあれば、学校に御相談くださるよう改めてお願いします。

## 学芸会を終えて

学芸会委員長 小林 健

雨の中、多くの保護者や地域の方々に鑑賞いただき、ありがとうございました。また多くの皆様のご協力のおかげもあり、無事に学芸会を行うことができたことを重ねて御礼を申し上げます。

さて、各学年の演目はいかがでしたでしょうか。子供たちの練習期間は一ヶ月程度ではありましたが、その前から、どの学年も本番に向けて、練習以外にも様々な準備や話合いに時間をかけてきました。その成果がどの学年にも現れていたように思います。

今回、改めて感じたことは「舞台は舞台上の役者だけではなく、袖や裏方の人もいなければならない」ということでした。特に6年生は、自分たちの演目以外でも、『会場設営』『装飾』『演目の紹介』『照明』『大道具出し入れ』『換気』『児童鑑賞日の休憩時間の幕間』『次の学年への連絡』『片付け』と様々な場面でそれぞれの役割を果たし、活躍を見せてくれました。また決められた仕事だけでなく、自分たちで考え、臨機応変に活動していたことも素晴らしいと感じました。また、多くの保護者や地域の方々のご理解とお手伝いがあり、素敵な道具を揃えることや広い空間で練習を行うことができました。当日も大きな混乱もなく保護者の方に入場していただくことができました。

表に現れないところで活躍をしてくれている人も合わせて、学芸会をすてきなものにしたいという願いがあり、学年だけでなく、谷原小学校全体として、スローガンである「みんなの心と力を合わせて つくりあげよう すてきな舞台」は達成されていたと感じます。

次回の学芸会は二年後です。今後の学芸会も、心と力を合わせてすてきな舞台をつくりあげていきます。

## なかよし公園ランチ

特活部担当 後藤 実穂

10月31日(月)に兄弟学年で公園に行き、お弁当を食べました。1、6年生は谷原児童公園、2、4年生はひばり遊園、3、5年生はまきば遊園にいきました。6月に校内でお弁当給食と一緒に食べるという活動がありましたが、今回は公園までお弁当を持って行き食べるということで、どの子もピクニック気分で楽しそうに出かけていきました。4、5、6年生の児童は、道路の歩き方、食べる場所、遊びの内容など様々なところで下級生をリードし、お兄さんお姉さんらしさがさらに増していました。

食事を取り終わったらグループごとに考えた遊びを場所と体をたっぷり使ってどこのグループも楽しく遊んでいました。今後も谷原っこ祭りでの交流、仲良し読書などの活動がありますので、互いを大切にする態度や異年齢集団で関わる喜びを味わわせたいと思います。

## なわとび旬間

体育部担当 石川 哲也

12月12日(月)～21日(水)までは「なわとび旬間」になっています。この期間、中休みは全校でなわとびに取り組みます。なわとびカードを使っていろいろな技に挑戦して欲しいです。火曜日と金曜日は大なわをします。クラスごとにチームワークを発揮して、記録を伸ばして欲しいと思います。最終日、21日の「大なわ集会」で、3分間で何回飛べるか、タイムアタックを行います。練習の成果が出せるといいですね。

なわとびは全身を使い、筋力だけでなく、心肺機能を強くし、リズム感も養える優れた運動です。積極的に取り組んで、体を鍛えて欲しいと思います。

## 谷原っ子まつり

特活部担当 大倉 加奈子

### わっしょい、わっしょい、おまつりだー！

…まつりというと、ぱっと思い浮かぶのは、谷原小学校の夏祭り。かき氷に焼きそば…ああ、お腹が空いてきました。夏の楽しみの1つですよ。

さて、こちらのおまつりも楽しみです。そう、谷原っ子まつり。2年生から6年生、くすのき学級が出店します。1年生は、初めてのおまつりなので、出店は来年までのお楽しみ。今年は、お店をまわります。ところで、なぜ谷原っ子まつりをするのでしょうか。

まずは、学級の友達と協力して、1つのことを最後まで作り上げるためです。どの学級も、奇跡的に巡り合わせたメンバーで構成されています。今まで気付けなかった自分や友達のよさを見つけて、それを生かせたら最高です。次に、他学年との交流、活動を通して協力する心を育てるため。他の学年のお店へ行き、話をしたり、よさを味わったりすることも、貴重な経験になります。最後に、テーマに沿った活動を計画・実行する力を養うため。本番の日までの「時間」は、全員に「平等」です。どのように使い、どのような気持ちで過ごすかは、その人次第。自分はここで役に立てる。そういう気持ちをもってほしいです。

12月10日（土）が本番です。子供の発想の豊かさには、大人も驚かされます。公開日となっておりますので、ぜひ、工夫を凝らしたお店を見にいらして下さい。

## ♪音楽科より♪

音楽担当 後藤 実穂

### 「聴く」ということ

12月6日（火）に5年生が連合鑑賞教室に行きます。東京都交響楽団のオーケストラの生の演奏を聴くということで子どもたちにとっては普段見慣れなかつたり聴き慣れなかつたりするのでとても貴重な経験です。事前にプログラムに載っている曲目とオーケストラの楽器、鑑賞マナーについて学びます。今回は、行く前に自分が気になる曲や楽器を決めておき、特にその曲、その楽器に着目して聴くという視点を絞り、鑑賞後にまとめ、オーケストラの魅力を他学年に伝えるという活動を考えています。

“聴く”という鑑賞の活動は歌唱や器楽の表現につながる大切な活動だと考えています。

きくという言葉は意味があって「聞く、聴く、効く」に分かれると考えています。まずは耳を傾けて聞き、興味をもつことができれば心と目を傾けて聴き、それが身に付いてくると学習に効果的に効くことができます。

子どもたちにもこの話をしておいて、当日どんなきく能力を使うことができたのは鑑賞後にまとめたいと考えています。普段から“きく”という行動はどんな意味をもっているのか考えて過ごせたら“音楽を聴く”ことが楽しくなるのではないかと考えます。

音楽室前にまとめを掲示する予定ですので是非ご覧になってください。



# 12月の予定

日	曜	予定
1	木	読書旬間
2	金	美化日 校内研究会のため4時間授業 研究授業2-3小小学級
3	土	
4	日	
5	月	委員会⑧ 安全指導 伝統工芸体験4年
6	火	健康の日 保護者会346年
7	水	避難訓練
8	木	保護者会125年くすのき
9	金	読書旬間終
10	土	学校公開⑥ やわらっ子まつり
11	日	
12	月	なわとび旬間始 5時間授業
13	火	
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	クラブ⑪ オリパラ講演 2校時:1~3年 3校時:4~6年
20	火	
21	水	なわとび旬間終 給食終
22	木	2学期終業式 4時間授業給食なし
23	金	天皇誕生日
24	土	
25	日	
26	月	冬季休業日始
ㄱ		
日	曜	1月の予定
9	月	成人の日 冬季休業日終
10	火	3学期始業式 5時間授業 給食始 計測2年
11	水	計測3年 席書会56年
12	木	計測1年 席書会34年

## 人様のご迷惑にならないように…

生活指導主幹 村上 美予子

先日、電車の中で見かけた光景。3、4歳くらいの子供が、喉が渇いたから何か飲みたいと、父親に泣いて訴えていました。静かな車内に鳴り響く鳴き声…。そういうときの親の対応は…? 「静かにしなさい。」と声をかける、「周りの人が睨んでいるよ。」と声をかける、叩いて注意する、何も言わない、周りの人が嫌な気持ちになることやそれが迷惑なことだということを説く、などなど、様々な対応があるように思います。その父親は、電車の中では静かにしないと周りの人がとても嫌な気持ちになるから、泣かないでもう少し我慢しなさい、と説いていました。この子はきっと、もう少し成長すると、「電車の中では静かにしなければいけない。」と自分から気を付けることができる子になるだろうと思って見ていました。

さて、谷原小の子供たちのこと。下校時、「よその家に迷惑を掛けてはいけない。」ということについて、子供たちに話をしました。(もちろん、よその家に迷惑を掛けてはいけないのは、下校時に限ったことではないのですが。)なぜ、迷惑になるような行為をしてはいけないのだろうか、と聞くと、「その家の人が悪い気持ちになるから。」「その家の人困るから。」「その家の人嫌な気持ちになるから。」…と、高学年の子が口火を切って答えくれました。さすが、谷原小の高学年。周りの人に迷惑を掛けないというマナーを身に付け、実践していくには、人への思いやりが必須だということをよく分かっていました。身近にいる大人の価値観=子供の価値観、親は子供の鑑、私たち大人がしっかりと教えていかなければなりません。その積み重ねが、社会性を育み、自分を含めてみんなが気持ちよく過ごせる地域・社会をつくることにつながっていくことでしょう。

冬休み、お出かけや親族の方々との団欒もあることと思います。マナーについて学ぶ機会があるとよいですね。